

教科経営・学習指導

～確かな学力の育成～

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ～「はばプラⅡ」を基にした指導と評価の一体化～

「はばプラⅡ」に示されるような問題解決的な授業づくりを実践し、授業の「ねらい」に即して児童生徒の学習状況を見取り、評価することが大切です。

「はばたく群馬の指導プランⅡ」を参考に
するなど問題解決的な授業づくりをしましょう。

指導

【全教科等共通】

1. 児童生徒にとっての単元及び題材の課題を設定しましょう。
児童生徒が、単元や題材で解決することや学習の方向性、目標に到達した姿をイメージできるようにしましょう。
2. 単元及び題材の課題の解決（目標への到達）に向け、各単位時間をつなげましょう。
児童生徒の追究意欲や学習内容がつながる授業づくりをしましょう。
3. 多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面をつくりましょう。
友達や教職員、地域の人々と話す、昔の人の優れた考え方や文献及び作品などに含まれる作者の意図に触れるなどの機会を位置付けましょう。
4. 主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、各単位時間での「めあて」の設定と「振り返り」の場面をつくりましょう。
児童生徒が主体者となり学習を進める授業の導入、自分たちで学んだことを自覚させる授業の振り返りを大切にしましょう。

一体化

【小学校社会】
単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①□□について、(見学・調査・地図・年表など)で調べ、必要な情報を集め、読み取り、○を整理している。	①□□に書かれて、問いを見出し、○〇について考え表現している。	①□□について、予想や学習計画を立て、学習計画に従って学習を進め、学習問題の追究しようとしている。
②調べたこと(自問自答表・年表など)や文などに、○◎を整理している。	②AとBを比較・関連付け、総合的に見て、△△(社会的現象の特徴や定規)について、△△を基に社会の発展と位置を表現している。	②△△と△△を比較し、△△を定めたことに基づいて、△△(社会的現象の特徴や定規)を判断・評価し、△△(社会的発展)を追求しようとしている。

※左側の【思考・判断・表現】(②)は、単元において、「社会への関わり方を選択・判断する」「社会の発展を追求する」などの学習目標が設定されている場合は、記述されます。

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

はばプラⅡに示されるような問題解決的な学習の単元構成でない限り、評価観点における学習状況の評価はできません。

「指導と評価の一体化」の充実

「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)
全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援することによって、その改善を図ります。

「評定に用いる評価」(評定したことを記録に残す)
目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を選択します。
・社会的知識・技能と思考・判断・表現は、継続的に指導を積み重ねた結果としての学習状況での捉え、学習過程の後の場で、記録が多くなることを考えます。

授業の「ねらい」に即して児童生徒の学習
状況を見取り、必要に応じて学習の改善を図
る指導・支援をより一層充実させましょう。

評価

＜指導に生かす評価＞ (学習状況を見取る)

- ・各単位時間の「ねらい」に即し、児童生徒の学習状況を見取る場面を想定しましょう。
- ・児童生徒の学習状況を適宜把握し、資質・能力の確かな育成を図りましょう。

＜評定に用いる評価＞ (評価したことを記録に残す)

- ・各教科等における学習の目標の実現状況が、児童生徒の反応から顕著に見られる場面を精選しましょう。
- ・毎回の授業ではなく、単元や題材の指導計画に、計画的に位置付けましょう。

【指導と評価の一体化の充実に関わる資料は下記のアドレスへアクセス】

群馬県教育委員会 各課発行・提供資料
<http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/> **検索**

情報活用能力の育成

- 小学校では、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けられるよう、以下のプログラミング体験を確実にこなせるようにしましょう。中学校「技術・家庭科」では、小学校における体験を生かしつつ、高校「情報」での学びへのつながりを意識しながら、生活や社会における問題をプログラミングによって解決する活動を行いましょ。
- ＜算数、理科におけるプログラミング体験の内容＞
- ◇算数 小5「正多角形」
Scratchなどのソフトウェアを使い、児童がプログラミングを用いて正多角形を描写する。
 - ◇理科 小6「電気」
エネルギーを効率よく利用するために、光センサーなどを使ってLEDの点灯を制御するなどといったプログラミングを体験する。

○情報活用の実践力や情報社会に参画する態度につながる、ICTの基本的な操作や情報モラルを身に付けるための学習活動を発達段階に応じて行いましょう。

- ＜身に付けさせたい力の例＞ ※はばたく群馬の指導プラン 実践の手引 P146、147 参照
- 小3 キーボードから文字を入力することができる。
 - 小4 デジタルカメラなどを操作することができる。
 - 小5 インターネットを閲覧し、文字や画像などの情報を収集して調べたり比較したりできる。
 - 小6 調べたことや考えたことを分かりやすく発信することができる。
 - 中学校 収集及び発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考えることができる。

外部人材の活用

○学習内容や地域の実態に合わせ、外部人材を計画的に活用し、児童生徒が学習内容と日常生活や社会の事象とのつながりを意識できる機会を設定しましょう。

- ＜授業における外部人材の活用の例＞
- ◇国語 中3「想いのリレーに加わろう」
「つかむ」過程において、新聞記者から情報の収集や取捨選択の仕方の話を聞くことで、同じテーマでも違う情報を取り上げたり、様々な主張があつたりすることを理解し、「追究する」過程での学びの見通しがイメージできる。
 - ◇理科 小5「植物の発芽、成長、結実」
「まとめる」過程において、農業関係者(イチゴ農家等)から受粉の仕組みや収穫量を増やすための工夫についての話を聞くことで、「追究する」過程までの学びと日常生活とのつながりを実感できる。

学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導

○障害のある児童生徒や日本語の能力が不十分な児童生徒の学習に対する困難さの正しい理解と認識を深め、個に対する指導に組織的に取り組みましょう。

学校図書館の活用

○授業で使用する図書資料等や学校図書館の利活用を、各教科等の年間指導計画に位置付けましょう。